

第1学年外国語科（英語Ⅰ）学習指導案

指導者(英語領域専攻) ○○○○
(指導担当教員 ○○○○)

1. 日時 平成○年○月○日(○曜) 第1校時(8:30~9:20)
2. 学年・組 第1学年○組 計40名
3. 場所 第1学年○組 教室
4. 単元名 文法LL演習
動名詞(CRYSTAL 総合英語(p174~p179))

5. 単元の目標

(関心・意欲・態度)

- ・動名詞に興味を持ち、進んで活用しようとする。

(表現の能力)

- ・動名詞の意味上の主語を明示する場合と省略する場合の違いを識別し表現することができる。
- ・他動詞の後に来る目的語として動名詞を用いるか、不定詞を用いるか識別し表現することができる。

(理解の能力)

- ・動名詞の時制を、前単元で学習した不定詞の表す時と比較しながら理解することができる。

(知識・理解)

- ・動名詞には名詞的用法と形容詞的用法があることを理解する。
- ・動名詞の否定形と受動態の形を覚える。

6. 単元について

①教材観

本単元は動名詞に関する単元である。動名詞とは、動詞の原形に **ing** を付けて作成するものであり、動詞の目的語、あるいは慣用表現などに用いられることが多い。一般的に動名詞と不定詞とは関連が深い、また混同しやすいとされる。したがって、今回の単元では、動名詞の内容が扱われるが、前時の不定詞の学習と関連が深いので、動名詞を明確にするために、前単元の不定詞との比較が扱われる。

動名詞は主に過去、不定詞は未来の事象を示すことにより、他動詞の目的格において明確に動名詞と不定詞が区別されることがある。動名詞と不定詞はいずれも名詞としての働きがある。一般的なことを述べる場合には動名詞を用い、個々の事例や特殊なことを述べる場合には不定詞を用いる傾向がある。また、一つの文で主語と補語に動名詞または不定詞を用いる場合には、主語・補語ともに同じ形を用いる。さらに、目的語としての動名詞・不定詞については(1) 動名詞・不定詞がともに目的語になりうる場合(begin, cease, dislike, hate, like, neglect, omit, prefer, propose, recollect, start などの動詞の後、ただし、begin, start など起動を表す動詞のあとでは一般に不定詞の方が好まれる)。(2) 動名詞と不定詞では意味が異なる場合がある。このように、動名詞と不定詞の区別はかなり難しい。さらに、動名詞には名詞的用法と形容詞的用法、不定詞には、名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法などがあり、その区別はなかなか困難である。

②生徒観

非常に元気の良いクラスである。素直な生徒が多く、出された指示に従って真面目に取り組めるクラスである。ただ、生徒の反応や取り組む態度は不安定になりがちで授業に真剣に取り組んでいるときとそうでない時の差が激しいクラスでもある。何人かがグループになって突然、授業とは関係のない話をするときもある。教師が話しているときは、生徒が雑談をするのはまれだが、板書を

している時に騒がしくなるときがある。

英語の授業に関しては、非常に興味をもっているようで、英字新聞を読んでくる生徒も見かけられる。またペンフレンドを海外にもつ生徒も数名ではあるが存在する。また、ブロークンイングリッシュではあるが、積極的に英語で発表しようとする意欲ある生徒も多いのがこのクラスの特徴である。

しかし、表現の能力については、さほど力をもっている生徒がいないのも確かである。前時の不定詞で、作文を書かせたが、きっちりと用法を使い分けられる生徒は半分程度しかいなかった。また、不定詞の文を発表させたが、ありきたりのことは発表できるが、創作して発表できる生徒はほんの数人であった。

しかし、ペーパーテストになると、非常によくできるのもこのクラスの特徴で、不定詞に関する知識・理解のテストではほとんどの生徒が合格点(90点以上)であった。

③指導観

前単元の不定詞とかなり関係があるため、不定詞と動名詞の混乱が無いように、一つ一つの事項を整理しながら、また不定詞との違いを明確にしながら授業をすすめて行く必要がある。

そして、今回の単元では、単純に慣用表現や文法上の形など、生徒が覚えることが中心になる分野と、生徒が動名詞の意味上の主語や動名詞が表す時など、その文や文脈の中で判断して見極めていかなければならない分野があるため指導には注意が必要である。特に生徒が覚えることが主要な分野については、音読活動を入れたり、暗記の手助けをしたりすることから、生徒が慣用表現だけでなく全文を覚えることを目指したい。さらに、より複雑な構造については、生徒に関連した例文を分析させ、筋道を立てて考えさせることを通して、それらの理解の定着を図りたい。

また、単元全体を通して、生徒が興味・関心を持って授業に取り組めるような工夫のある授業を展開しようとする。

7. 指導計画 (全3時間)

第一次 動名詞の用法 ……1時間

第二次 動名詞の意味上の主語および受動態と否定形 ……1時間 (本時 2/3)

第三次 動名詞が表す時および目的語として用いられる動名詞と不定詞 ……1時間

8. 本時の学習

①本時の目標

- ・ 動名詞の意味上の主語を正確に答えることができる。
- ・ 動名詞の意味上の主語を明示する場合と省略する場合の違いを識別することができる。
- ・ 動名詞の否定形と受動態の形を覚えることができる。

②本時の展開

○主なる指示・発問 ■評価

区分	学習活動と内容 (予想される児童・生徒の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	準備物・資料等
導入 2分	1. あいさつをする。	○机の上に授業の準備が出ているかどうか、生徒が勉強する姿勢に入っているかどうかを確認する(挨拶および出欠確認もする)。 ・必要に応じて少し間を取る。	
展開① 17分 (活動内容①)	2. 意味上の主語の学習をする。 (1) 動名詞の意味上の主語に関する学習をする。	○動名詞の意味上の主語に関する導入をする。	

動名詞の意味上の主語に関して理解しましょう。

・指名された生徒は答える。
「あなたです。」

(2) 動名詞の意味上の主語を明示する場合の学習をする。

- 「いきなりですが、今からクイズを出します。まず、この例文を見てください。」
 - ・ Do you mind opening the window?
(上の例文を黒板に板書する。)
- 「この文は誰が窓を開けるのでしょうか。」
(指名する。)
- 「この文はあなたが窓を開けることをあなたは気にしますか、となつてあなたに窓を開けるように頼んでいる文になりますね。」
- 「では今度は同じように窓を開けるのですが、あなたではなく、私が開けたい場合、どのような文になるのでしょうか。」
 - ・ Do you mind my opening the window?
(上の文を黒板に板書する。)
- 「ここで mind と opening の間に my が入ることによって、私が窓を開けることをあなたは気にしますか、という文になります。」
- 「このように動名詞には意味上の主語、というものが存在します。」
- 「意味上の主語を明示する場合から考えましょう。教科書 177 ページの囲みを見てください。動名詞の前に意味上の主語を置きます。囲みの例文 4 のように意味上の主語が無生物の場合はそのままの形で置きますが、それが人物である場合には所有格または目的格で表します。特に例文の 1 番のように動名詞が文の主語である場合には所有格で表します。例文の 2 番や 3 番にあるように、動名詞が文の主語でない場合は所有格もしくは目的格で表します。」
 - ・ 動名詞の意味上の主語を省略する場合についての説明をする。
- 「意味上の主語を省略されるのはどんな場合においてでしょうか。教科書の 176 ページを見てください。囲みの部分を見ましょ

	<p>(3) TRY 16 を解く。</p> <p>(4) 教科書 p178 の DIALOG の学習をする。</p>	<p>う。1 番の文は特定の人ではなく，一般の人を指しているので主語が省略されています。2 番は授業の 1 番始めに見た例文と同じですね。3 番を見てみましょう。この文は Our teacher が S, scolded が V, us が O で目的語になっていますね。このように意味上の主語が目的語と同じ場合に意味上の主語を省略します。」</p> <p>○TRY16 を解答させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 30 秒時間を与え，順番に指名。口頭で答える。 <p>○まず，教師が A の部分を読み，生徒が B の部分を読む。終わったら役割を交替して読む。</p> <p>■動名詞の意味上の主語を正確に答えることができるか。</p>	
<p>展開② 13 分 (活動内容②)</p>	<p>3. 否定形と受動態の学習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>否定形と受動態に関して理解しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノートに書き写す。 ・ ノートに書き写す。 	<p>(これまでの板書をすべて消す。)</p> <p>(何も説明せず，まず板書計画 i を板書する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「前半の 3 つの文は動名詞の否定形，最後の 1 文は受動態になっています。ではこの文を訳してみましょう。」 ・ 1 文につき 1 人指名。特に受動態の文は「～される」の形で訳させるようにし，例文 3, 4 の形が確かに受動態の意味になっていることを確認する。 ・ それぞれの例文において受動態，否定形になっているところに線を引き強調する。 ○「受動態については例外もあるので注意してください。」 ・ 板書計画 ii を板書する。 ○「教科書の p. 178 の注意と書かれているところに注目してください。My watch needs repairing. という例文が書かれています。これで私の時計は修理される必要がある，となります。このようにこれまで習ってきた be 動詞+過去分詞以外でも受動態を表すことができます。」 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・音読する。 ・ TRY17, 18 を解く。 ・ TRY17 と 18 の答えあわせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○否定形と受動態の形を定着させるため上の例文を2度ずつ Listen and repeat で音読させる。 ・ TRY17, 18 を解答させる。 ○30 秒時間を与え、順番に指名し、口頭で答えさせる。 ■動名詞の否定形と受動態の形を覚えることができるか。 	
展開③ 15分 (活動内容③)	<p>4. 学習内容に関する問題演習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークブックの例文を Read-and-look up をする。 ・ワークブックの問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ワークブックの44ページを開けてください。まず、左の例文だけを見てください。形を覚えてほしいので1文ずつ Read-and-look up をしてから問題演習に取り組みましょう。私が READ と言ったら1文を黙読し、UP と言ったら声に出して全文言ってください。」 ○「READ」「UP」(繰り返す。) ○「では問題演習に取り組みましょう。」 ■動名詞の意味上の主語を明示する場合と省略する場合の違いを識別することができるか。 	
まとめ 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・答え合わせをする(できたところまで)。 ・課題内容を知る。 ・次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○残り時間を見ながらできる限り解き進め、その場で答え合わせする。 ○解ききれなかった部分については課題(宿題)にする。 ○次時の予告をする。 	

③評価(の観点と方法)

- ・動名詞の意味上の主語を正確に答えることができるか。
- ・動名詞の意味上の主語を明示する場合と省略する場合の違いを識別することができるか。
- ・動名詞の否定形と受動態の形を覚えることができるか。

④板書計画

<p>(i) 動名詞の否定形：「not [never]+動名詞」 動名詞の受動態：「being+過去分詞」(=されること)</p> <p>6. She became ill by not eating properly. 7. My father is proud of never getting drunk. 8. No smoking is allowed in this room.</p>

9. I hate being laughed at by other people.

(ii) need+動名詞 = 「(人や物が) ~される必要がある」

⑤使用教材

CRYSTAL 総合英語 (増進堂)

CRYSTAL ENGLISH GRAMMAR (増進堂)

⑥参考資料

メディア総合研究所「英文法大全」 : <http://www.eibunpou.net/index.html>